

学べる症状シリーズ Vol.2

椎間板ヘルニア

救急車で病院に搬送するケースも

椎間板ヘルニアを患っているとは知らずに施術を行い、その施術中に激痛が走り救急車で病院に搬送した事例があります。

無症状の椎間板ヘルニアが知られているように、椎間板ヘルニアはその症状の発症によって治療が必要なのであり、存在していることが体が治療の対象になるわけではありません。精密検査を受けなければ本人もその存在を知らないケースも多く見られます。

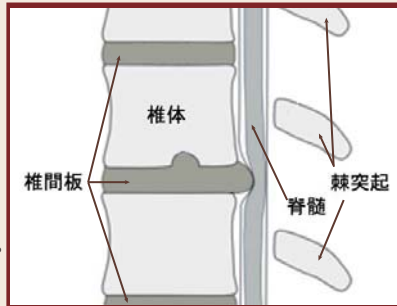
【椎間板ヘルニアとは】

椎間板とは、椎体の間でクッションの働きをしている軟骨で、中心部に髄核とその周囲を取り巻く線維輪からできています。

この椎間板が、突き出たことをヘルニアと言います。

ヘルニアは、下位腰椎が最も多く、次に下位頸椎に多く発症し、胸椎にはほとんど起こりません。胸椎に少ないのは、胸郭により、椎体間の可動性が頸椎や腰椎に比べ少ないことによります。神経根走行の関係から、下位腰椎では上位腰椎に比べ、神経根症状を起こしやすく、発見されやすいのです。高齢になると、下位頸椎での可動性が減少し、ヘルニアが起こりにくくなり比較的上位の頸椎病変をおこしやすくなります。つまり、椎間板ヘルニアは、よく動く脊椎の部分で起こりやすいのです。

ジョージ・ワシントン大学の研究によりますと過去にまったく腰痛を経験したことのない人をMRI検査で観察したところ60歳以下の痛みのない人の1/5にヘルニアが認められ、半数の人に椎間板の膨隆が見られました。また、60歳以上では、実に1/3の人に椎間板ヘルニアが存在し80%近くの人に椎間板の膨隆が見られました。これは、椎間板ヘルニアをもつ人のうち、痛みの症状がない人がかなりの確率で存在していることを表しています。



【検査】

MRIによる検査が極めて有効とされています。利点は、侵襲性が無く、容易に画像上でヘルニア形態を把握できること。欠点は、CTに比べ、空間的分解能に劣ることがあること、激痛を伴う場合、安静が困難なため、MRI撮影自体が困難なことなどが挙げられます。X線撮影では椎間板ヘルニアそのものは写りませんが、脊椎の骨性変化を見るのに有用であるとされています。

【原因】

前かがみで重い物を持ち上げた時、体をねじった時にかかる負担や加齢などが原因とされています。

【症状】

腰痛以外に坐骨神経に沿って走るような痛みがある。

足がしびれる。

筋肉の衰え（筋力の低下）。

などがありますが、ヘルニアのタイプ・大きさによって現れる症状が異なります。初回の発作では安静にしていれば数日から数週間で軽くなる場合が多いですが、体を動かすことで再発する場合があります。

【治療方法】

痛みのひどいときは、まず安静にすることです。初期の場合はヘルニアの部分を機械的に引っ張る“けん引”や低周波治療などを行い同時に鎮痛薬や湿布を使用します。これで約85～90%の人は良くなるというわれています。これらの療法でも症状が改善されない場合は、手術療法も考えられますが、つぶれて神経を圧迫している軟骨は外科的に取り除かなくても軟骨に血管が伸びて吸収されるといふ説もあり、以前ほど手術は行われていないようです。また、鍼をすることにより腰、足の血液循環が改善されると症状が緩和される場合もありますが100%治る治療法とはいいきれません。

ご承知のように、柔整師にとって「椎間板ヘルニア」は療養費の委任請求が可能な傷病ではありません。またカイロプラクターに対しても、厚労省の通知に「徒手調整の手技によって症状を悪化する頻度の高い疾患」として、変形性脊柱症、脊柱管狭窄症、脊椎すべり症などととも挙げられ、明確な診断がなされている場合は、対象とすることが適切ではないことと付け加えられています。

経験上、有効な対処方法を体得しており、自己責任において積極的に施術を行う施術家も見られますが多くの方はそうではありません。

また、骨折などと違い原因があきらかになりにくいことや、長期間の休養を必要とする場合があることから、事故の際に交渉が難航する症例のひとつだけに気をつけたいものです。

椎間板ヘルニアに限らず各症例について、自院近くにある検査が可能な病院や検査方法および費用等を事前に調べておき、必要な患者に情報を提供していくことも信頼される治療院への一歩と言えるのではないのでしょうか

◎ JHANewsのバックナンバーはホームページでご覧いただけます ◎

国家資格者

会員種別

正会員A 準会員

すべての手技療法家、施術家に
安心・安全を提供します

民間資格者

会員種別

正会員B

入会金無料

・無料相談（アドバイス）・手技療法に関する情報提供・当会ホームページへの求人情報の無料掲載・賠償責任保険の適用

【ご不明な点・詳細につきましては、お気軽にお問合せ下さい】

JHA 有限責任 日本治療協会
中間法人

URL: <http://www.jha-shugi.jp>

TEL: 03(5289)8171

FAX: 03(5289)8173

TEL 受付: 10:00～18:00 (平日)

FAX 受付: 24時間年中無休

郵送先 〒101-8691 東京都神田郵便局 私書箱46号

E-mail: info@jha-shugi.jp